

## 2. 大味上遺跡

所在地：坂井市坂井町大味

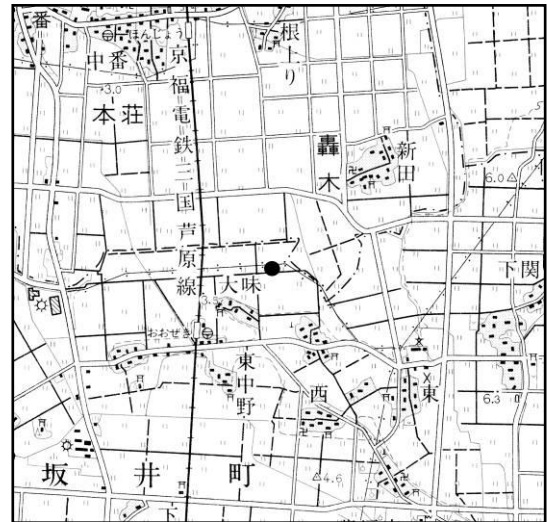
調査原因：県営かんがい排水事業西江・中江地区

調査期間：平成 22 年 10 月 1 日～10 月 29 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：320 m<sup>2</sup>

時代：縄文～古墳時代



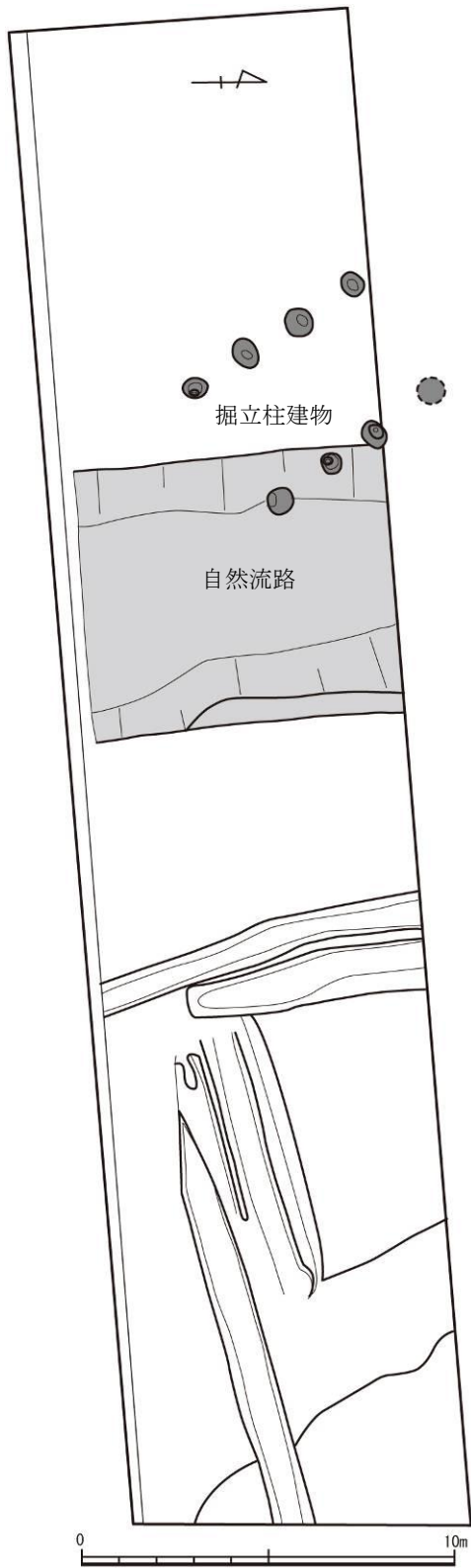
位置図 (S = 1/50,000)

**調査の概要** 今回の調査は、西江・中江用水のパイプライン化に伴い実施しました。調査区は、坂井市坂井町大味上集落の北側、東西方向の農道です。周辺では平成 8 年度に坂井大味地区の圃場整備時に排水路の一部を発掘調査しています。今回の調査区付近では、自然流路から縄文時代晩期後半の土器が、井戸からは古墳時代の土師器が出土しています。

**遺構** 遺構は、古墳時代の掘立柱建物 1 棟と自然流路、溝多数を検出しました。建物の規模は、桁行 3 間(5.2m)、梁行 1 間(4.3m)です。各柱穴は直径70cm程の円形もしくは楕円形を呈しています。溝は、田畑の畝と思われるものが大半です。自然流路は、幅 7 m、深さ 1.5 mの規模で南北方向に伸びます。自然流路埋土の上層、黒色土から弥生土器(後期)が、下層の灰色粘質土からは縄文土器が出土しました。

**遺物** 遺物は、掘立柱建物の柱穴から古墳時代の土師器が出土し、溝からは縄文土器(晩期)がつぶれた状態で出土するなど、比較的まとまって出土しています。

**まとめ** 前回の発掘調査や今回の調査時に調査区付近で数多くの遺構を確認しており、弥生～古墳時代の集落が展開していると思われます。また、自然流路は南に約 200m離れた前回の調査区で検出されたものと規模・埋土堆積状況が似ており、同一のものと考えられます。付近で縄文時代晩期の集落の存在も想定できます。(青木隆佳)



遺構略図 (S = 1/200)



全景 (西から)



自然流路 縄文土器出土状況



掘立柱建物全景